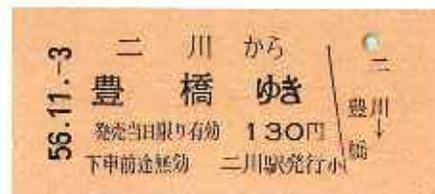


34 《吉田宿》

吉田城の城下町で道が曲折している。

宿内人口	5277人
総家数	1293軒
旅籠	65軒
軒	1軒
大中小	13軒 51軒



JR豊橋駅



本陣 2軒
脇本陣 1軒

2軒あった本陣の内の中西家。もう1軒の山田家が同じ並びの少し先にあった。今はうなぎ屋になっている。



本陣前にある説明板。



鍛冶町にある金物屋。



1号線を左に入り昔の東総門を少し入ったあたりの鍛冶町の家並み。



西の総門を出た所の田町の
曲がり角。



本陣や問屋場のある札木町。
宿の中心部。



西の総門の少し手前の
上伝馬町。



吉田城の櫓 永正2年(1505)牧
野氏によって築かれ、家康の時代に酒
井氏から池田輝政へと代わった。
櫓は昭和29年復元された。



吉田大橋 天亀元年(1570)
豊川に架けられた橋で、別名豊橋
ともいい市の名の由来ともなった。
岡崎の矢作橋と並ぶ大きな橋。



大正5年に架けられた
親柱が残されている。



路地を1つ入った魚町の様子。

34

吉田宿

徳田宿と吉田宿

高札場
今川源太郎



⑤

突当たりが大手門のあった所



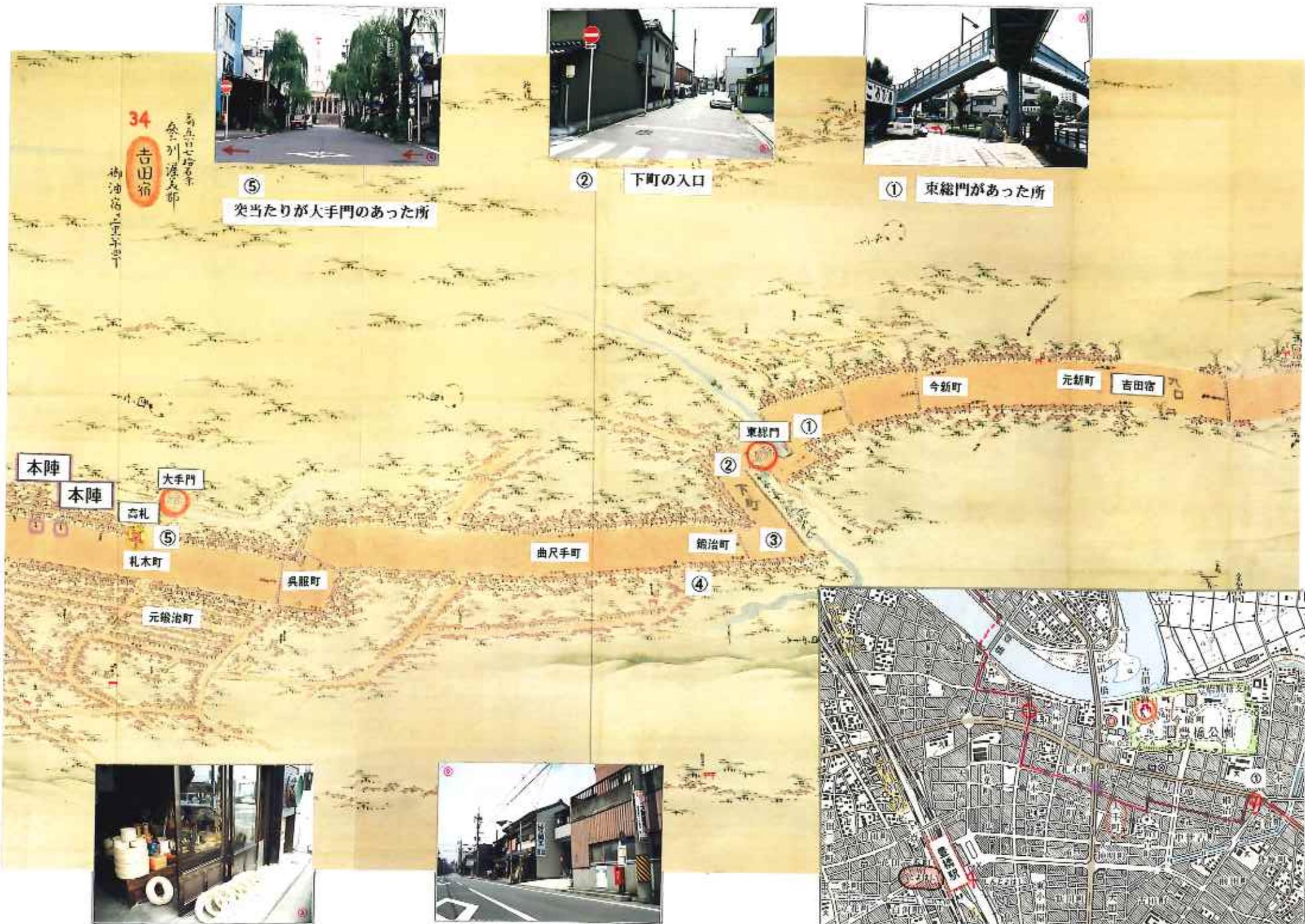
②

下町の入口



①

東総門があった所



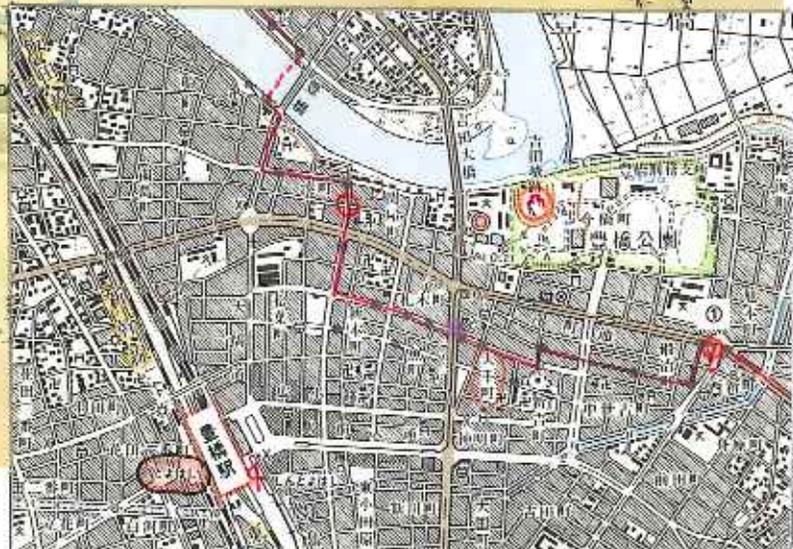
④

鍛冶町の桶屋



③

鍛冶町の入口





⑨

右の絵と同じ方向からの写真



末広の五十三次



吉田城内

⑨



⑩

吉田橋



⑧

船町の曲り角

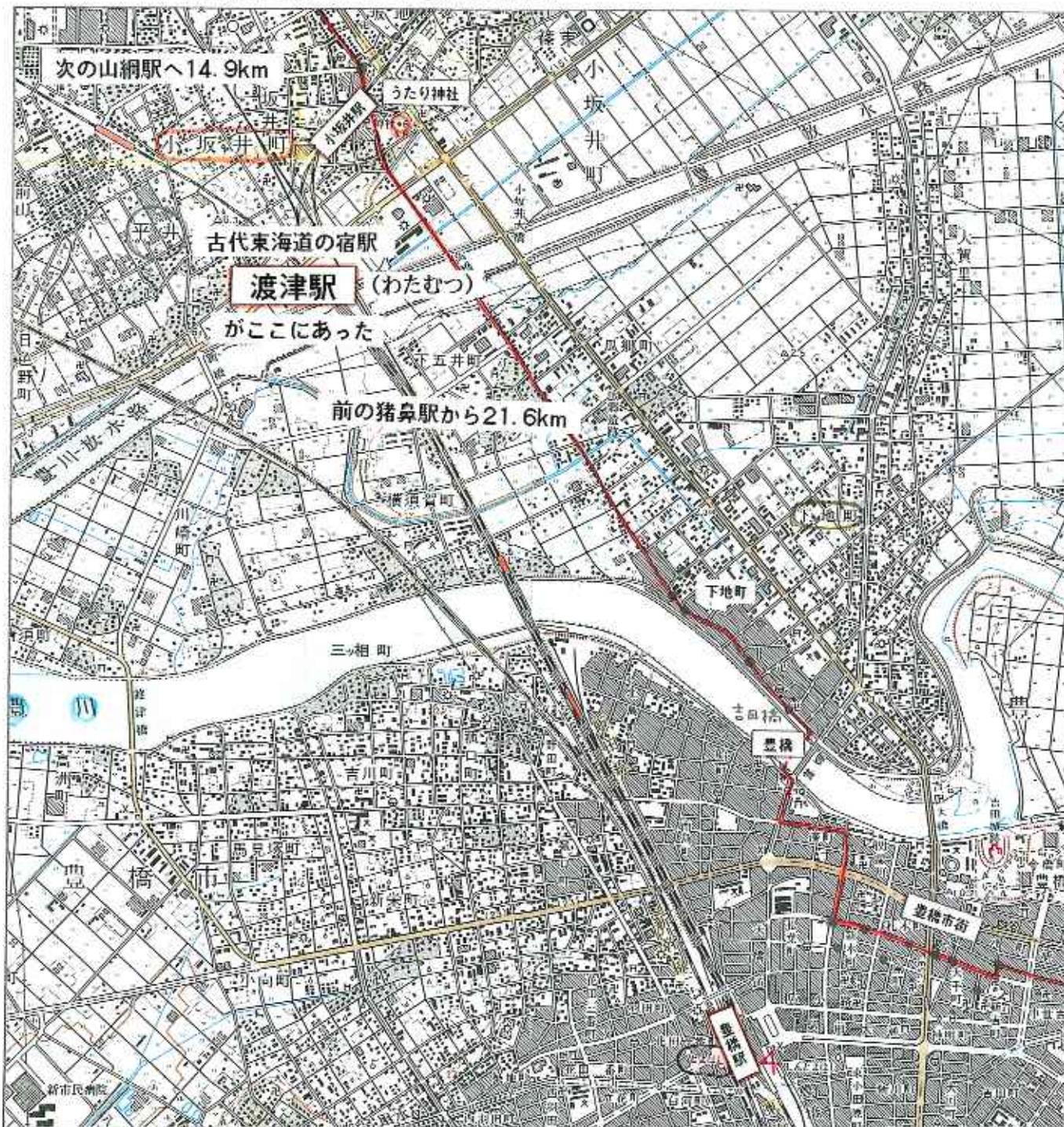


⑦ 西総門のあった所



⑥

脳本陣跡



豊橋を出て下地町を通る。



足神社 小坂井町にある延喜式の式内社で、奈良時代の少し前の686年の創建と古い。



小坂井町の家並み。

東海道が突然消えた！



名鉄豊川線のガードをくぐると道がなくなり、跡をたどって歩く。豊川市白鳥町。



三河の国府のある国府町へ入る。ここでやっと東海道の道にもどる。



ここから豊川市に入る。



伊奈村の一里塚跡 日本橋から75里目(300km丁度)の所。



中心部の少し先、古い家並みが続いている。



国府町に入る。岡崎信用金庫が見える。



前方は上町の国府大明神。今は大社神社という。



中町の十字路で右に行くと国府の駅へゆく。昔は左の道しかなく右には行けなかった。



姫街道との合流点にある常夜燈と秋葉山への標識。常夜燈は道標をかねている。



名鉄の国府駅。「こう」と読む。平成31年1月27日撮影



御油橋を渡り御油宿へ入る。



本坂越え(姫街道)との合流点。見付宿から約6.3kmある。



A 地点

古代の東海道と思われる様な道路で、周辺は条里が広がって直線の道路が続いている。資料ではこの右側になっているが…道幅は約12mあった。



上宮

国府の北側にある総社。平安末期の創建で「総社大神宮」という。この東側に国片があった。白鳥町上郷中。



国府周辺の小字名

『古代の国府の研究』 国立歴史民俗博物館 研究報告 第10集



下宮

白鳥町の綾守白鳥神社。天慶年間（938～947）創建の古社。まわりは土塁で囲われている。白鳥町下郷中。

国分僧寺

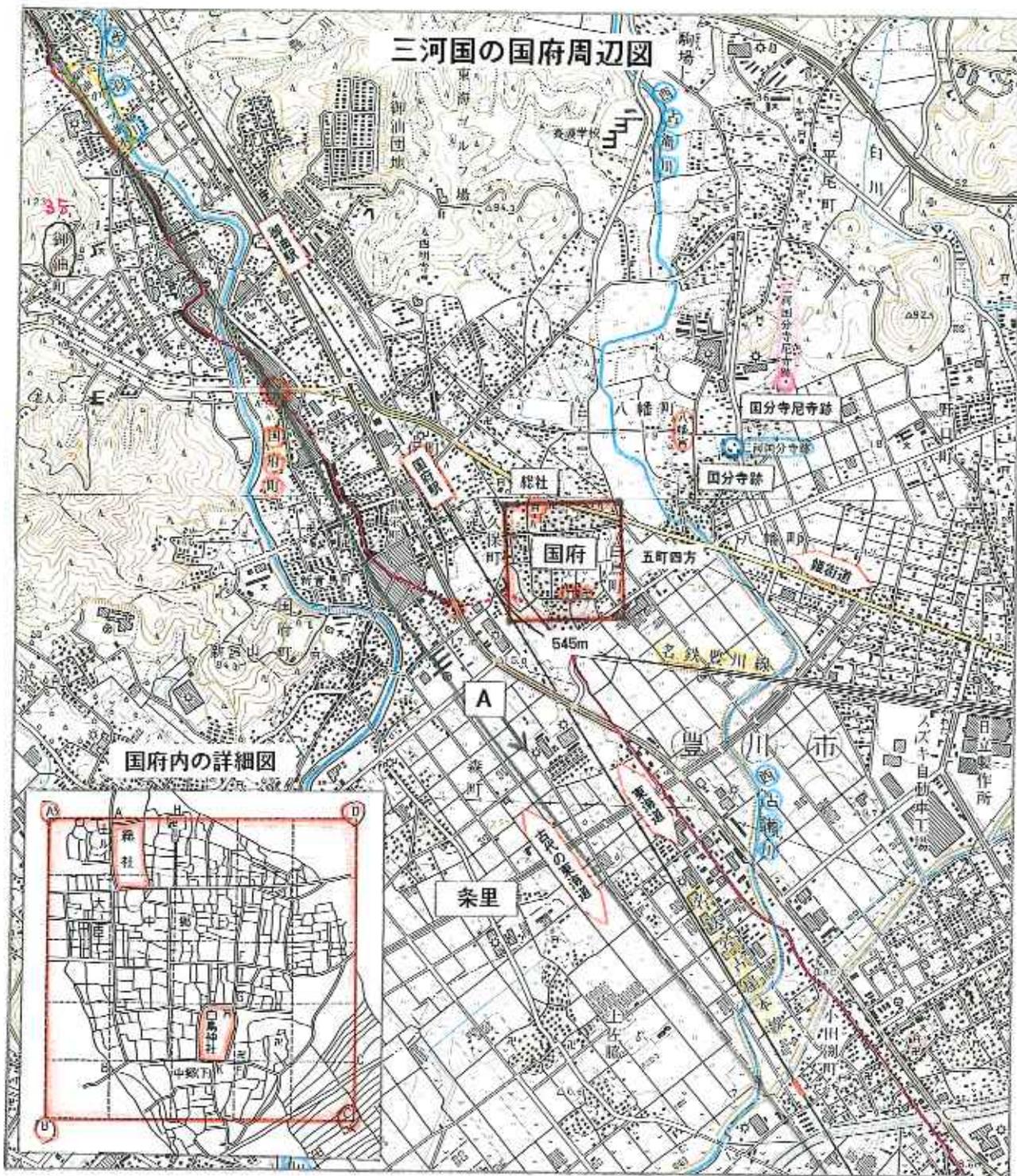


現在は東側に、室町時代後期の永正年間（1504～1521）創建の新しい国分寺が建てられている。七重塔の跡が残っている。尼寺の方が先に整備されたが、僧寺の方はまだ整備されていない。

国分尼寺



全国の国分尼寺の中でも最大級の規模で、正面入口の南大門が復元されている。右奥は本堂の金堂があった所で、全域が復元されている。天平の里資料館が向い側にある。



35 《御油宿》

古い建物がまだ残っている。姫街道の西の分岐点。

宿内人口

1298人

総家数

316軒

旅籠

62軒

大 11軒
中 23軒
小 28軒



名鉄御油駅。豊橋から4つ目。



41代持統天皇（女性）が行幸の際、油を献上したので付いた名といわれる。



御油の入口近くの下町の家並み。



本陣 4軒
脇本陣 0軒

本陣が4軒並んでいた内の一番手前の林家。



左から来た道がここで又西へ曲がっている。

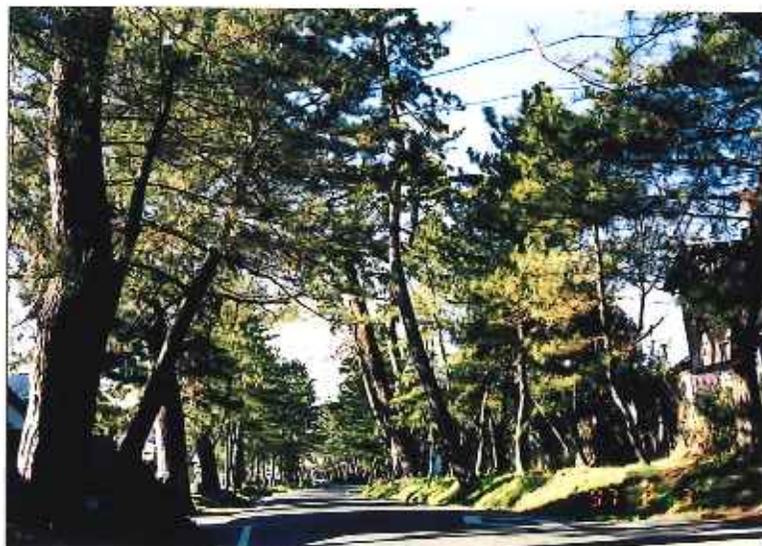


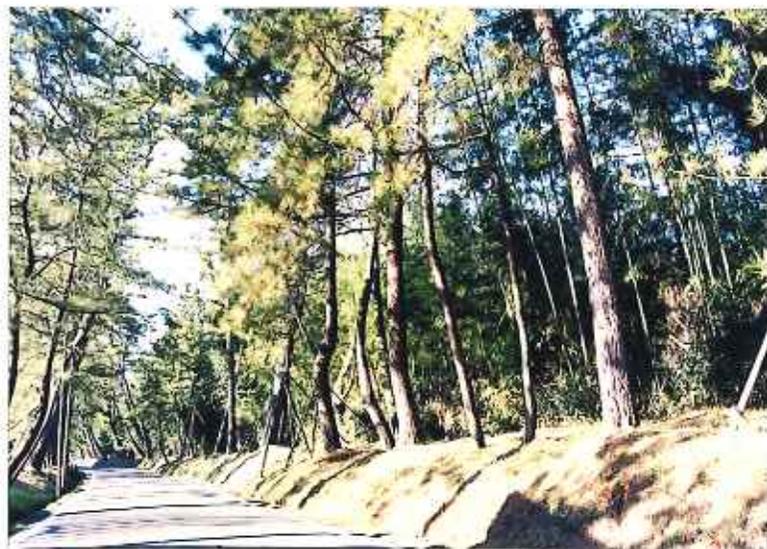
松並木の入口



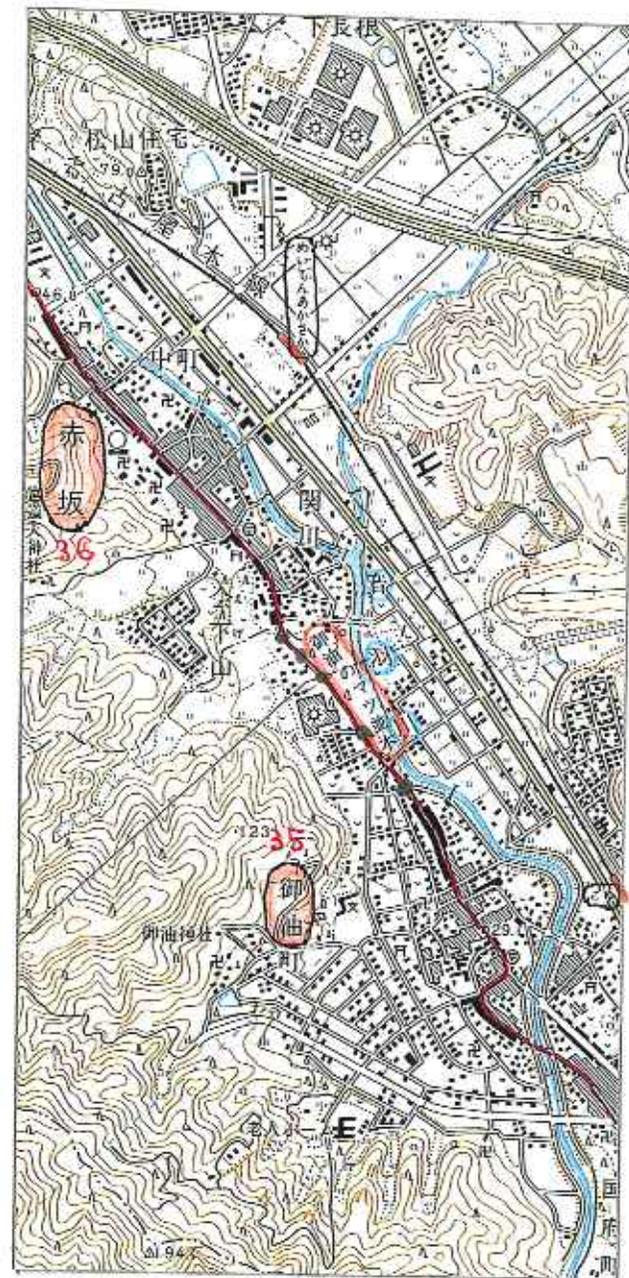
慶長9年（1604）幕府によって
植えられた。

かつて約650本、600mに渡って
続いていたという御油ノ松並木。
江戸時代の面影をとどめる街道随
一の松並木で、国の天然記念物に
指定されている。今でも樹齢100
年以上の古木が約90本、補植され
た松に混じってたたずんでいる。





ここで松並木は終る。



御油宿と赤坂宿の間の距離は短い。

36 《赤坂宿》

鎌倉時代からの宿場町



本陣 3軒
脇本陣 1軒

本陣が3軒あったが何も標識がなく場所が特定出来ない。この右側と左側の辺に平松家の本陣があった。



名電赤坂駅。豊橋から5つ目。



東海道で唯一泊まれる昔の旅籠「大橋屋」。芭蕉も泊まったという300年の歴史がある旅館。



赤坂宿の入口。左は関川神社。

宿内人口

1304人

総家数

349軒

旅籠

62軒

軒軒軒
大 15
中 19
小 24

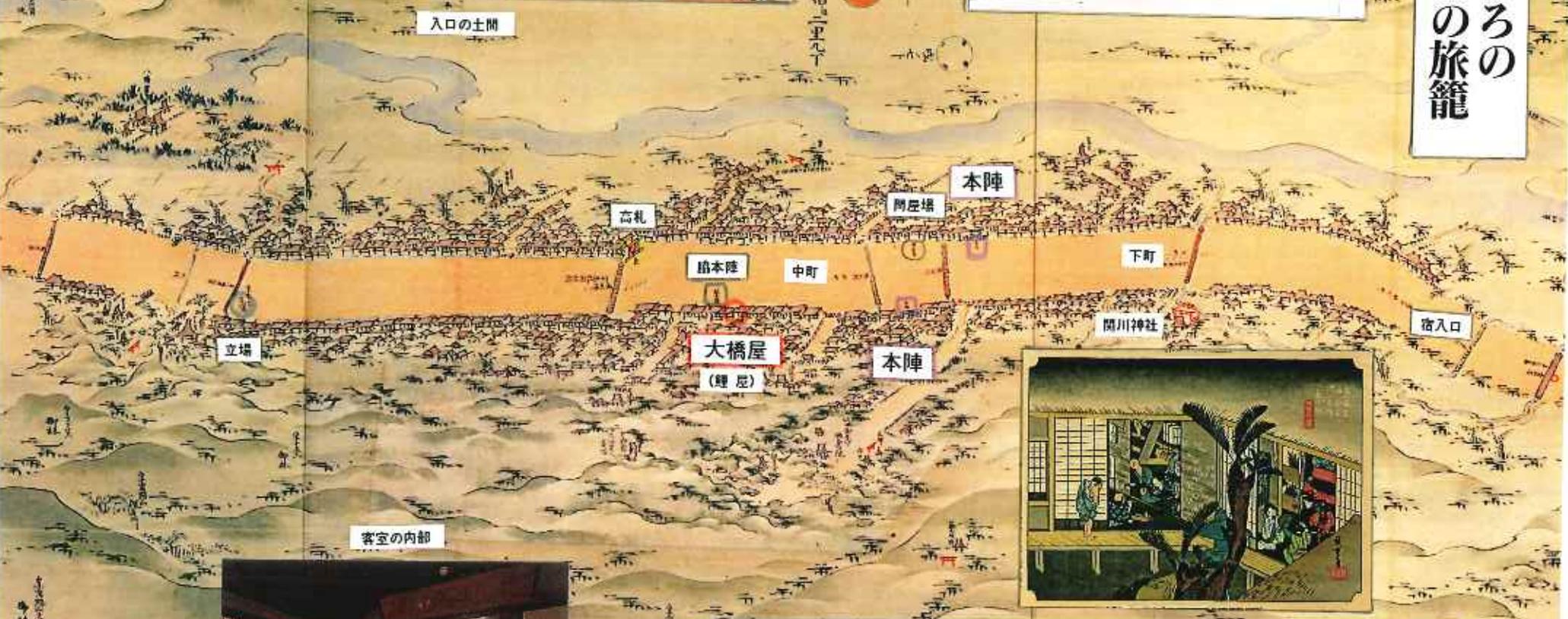
広重描くところの 旧東海道唯一の旅籠



高八百六拾四石下
参列堂殿郡
36
赤坂宿
井藤川宿二里九下



入口の土間



客室の内部



●大橋屋
〒441-02 愛知県宝飯郡音羽町大字赤坂字紅里127 ☎05338・7・2450 8000～1万2000円（1泊2食付き・税込み）。食事のみは昼2000円～、夜3000円～。7室。
交通は、名鉄名古屋本線の名電赤坂駅下車、徒歩5分。最寄り的高速道路インターは、東名道の音羽蒲郡。1号線経由で約5分。



神谷の名の店があちこちに見られる。



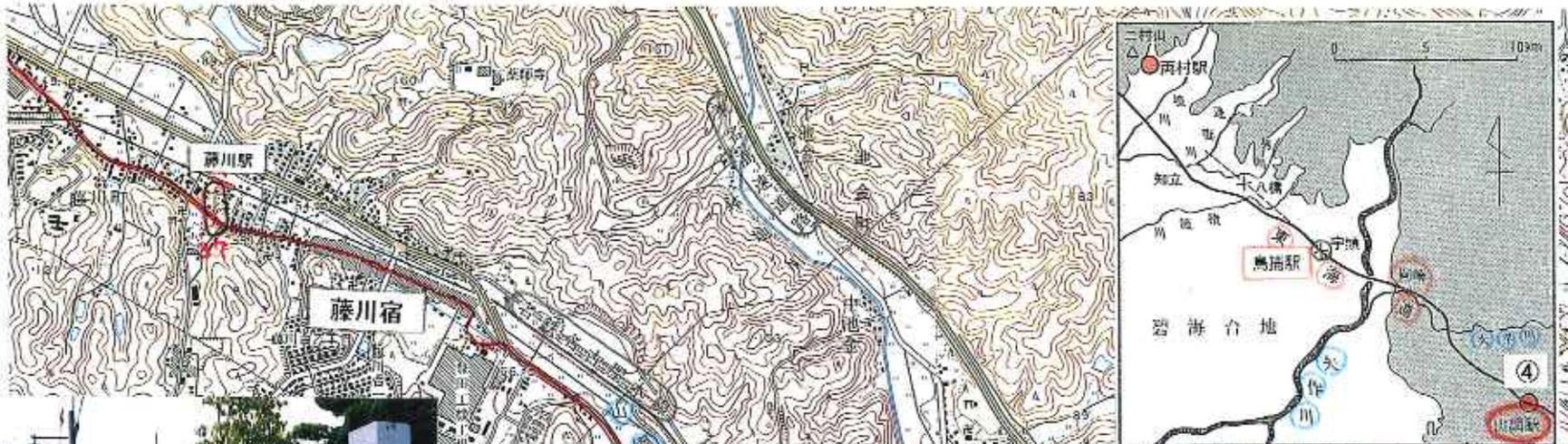
ここから岡崎市に入る。国道1号線を左に入る。右は名鉄名古屋線。



②



東海道の間の宿で陣屋があり、代官屋敷があった。



本宿の一里塚

古代の官道の山網駅があった所



愛知県岡崎市山網町（三河国額田郡）
 前の渡津駅から
 14.9km ↓ 山網駅 ↓ 次の鳥捕駅まで16km
 国道1号線・東名高速・名鉄が集中している交通の要地



山網付近にある江戸時代の医者の家。

37 《藤川宿》

名鉄藤川駅がある。愛知県岡崎市。

宿内人口

1213人

総家数

302軒

旅籠

36軒

大 7軒
中 16軒
小 13軒



宿の入口 この先つき当たって右に曲がる。



本陣 1軒

脇本陣 1軒

本陣森川家跡。建物は
ないが標識が建ってい
る。



本陣の少し先にある脇本陣大西家。
享保4年（1719）の門が現存し
ている。



本陣の向い側の商家「銭屋」



生田川の橋を渡る。



藤川宿の出口。



乙川の大平橋を渡る。昔の橋はこの左側にあった。



大岡邸跡は、今は郵便局の裏手になっている。



名鉄名古屋線の踏切りをはさんで約400mの松並木が続く。

当時は街道に面していた。



寛延元年（1748）72才の時に1万石を与えられ、この大平の地を領した。以来代々ここに住んだ。77才でなくなった。



屋敷跡の石標



町奉行の大岡越前守忠相の屋敷跡。



岡崎宿に入る少し手前の所で、この先を右に曲がる。「岡崎27曲り」の始まり。



大平の一里塚 左半分が残っている。



名鉄バス大平町のバス停。

38 《岡崎宿》

西三河の中心地で、家康の生まれた岡崎城の城下町

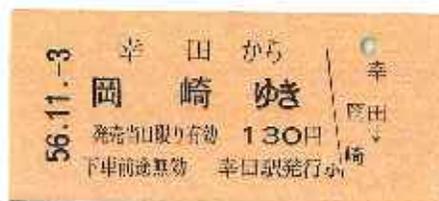
宿内人口	6494人
総家数	1565軒
旅籠	112軒
大	23軒
中	28軒
小	61軒



岡崎宿の入口若宮町。昔の投町。



伝馬通りの銘菓「あわ雪」の輪前屋。創業は天明2年（1782）と古い。



名鉄東岡崎駅。JR岡崎駅は4 kmも離れている。





西本陣のあった所。今は映画館になっている。



東側にあった本陣で、右側の公証役場の辺にあった。

本陣 3軒
脇本陣 3軒

本陣は正徳3年(1713)の頃は2軒(中根・浜嶋家)。後に3軒(中根・服部・大津家)となった。本陣と脇本陣はいずれも伝馬町にあった。絵図には2軒になっている。



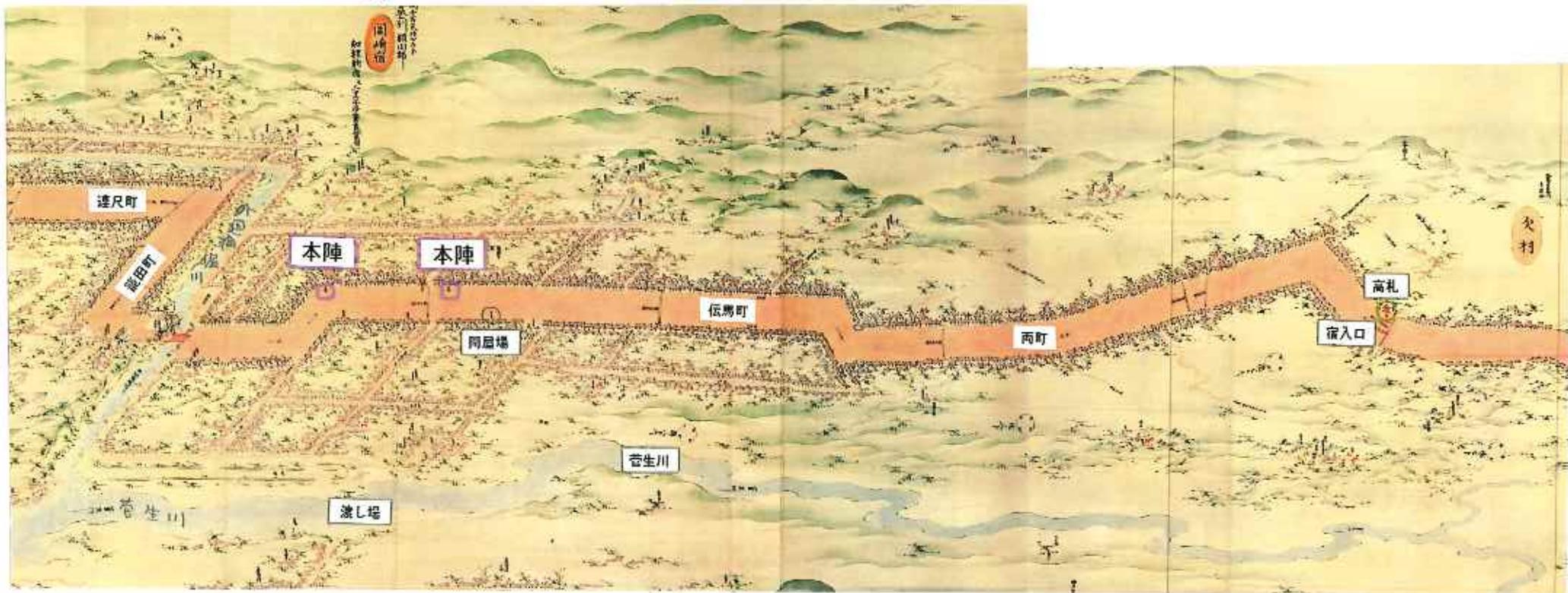
ここにあった堀の橋を渡ると番所があって、その先に城内へ入る木戸があった。昔の籠田町。



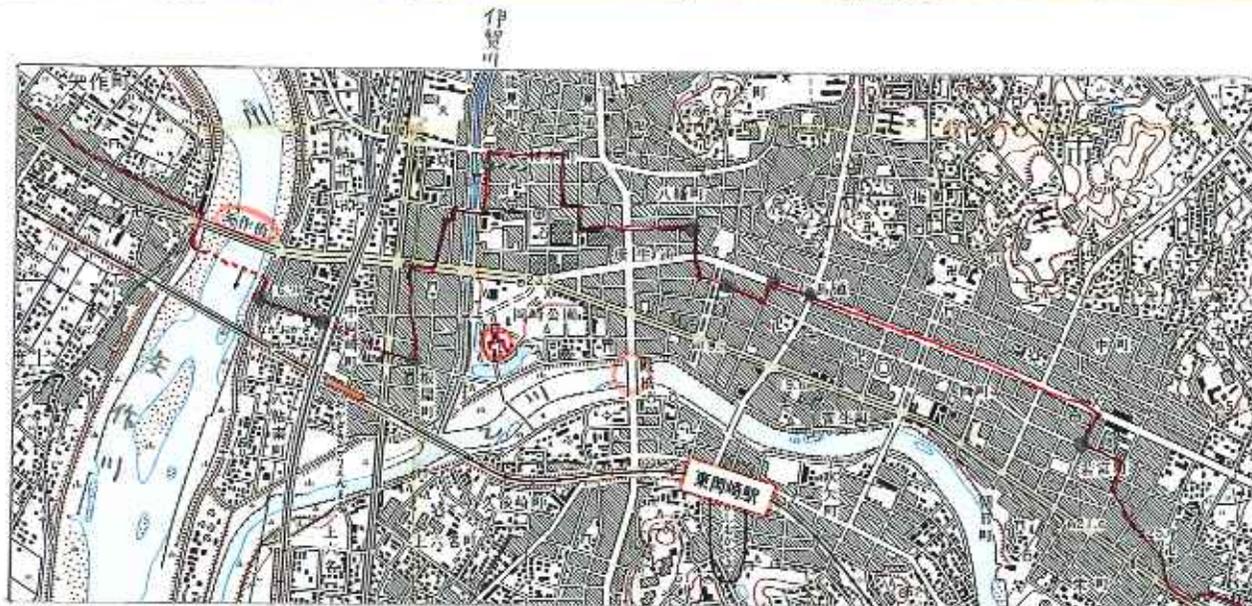
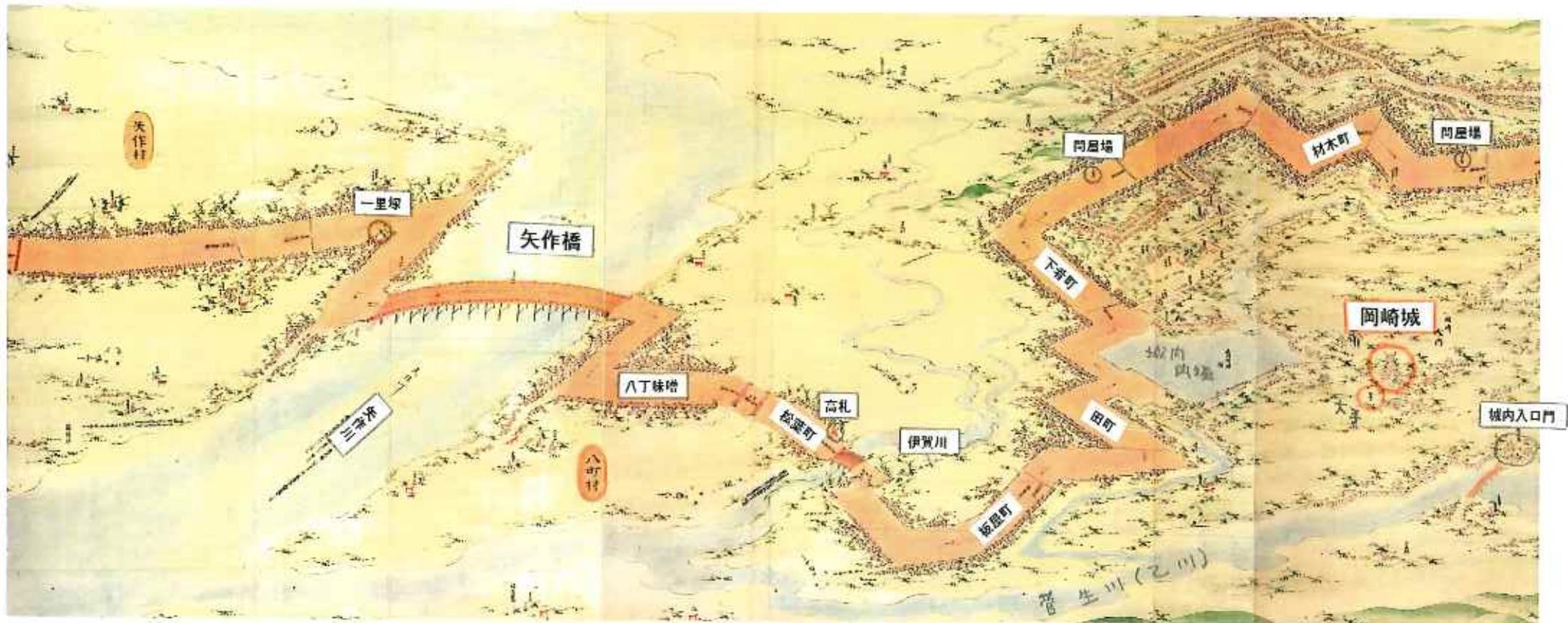
伝馬町通りを左に曲がる。



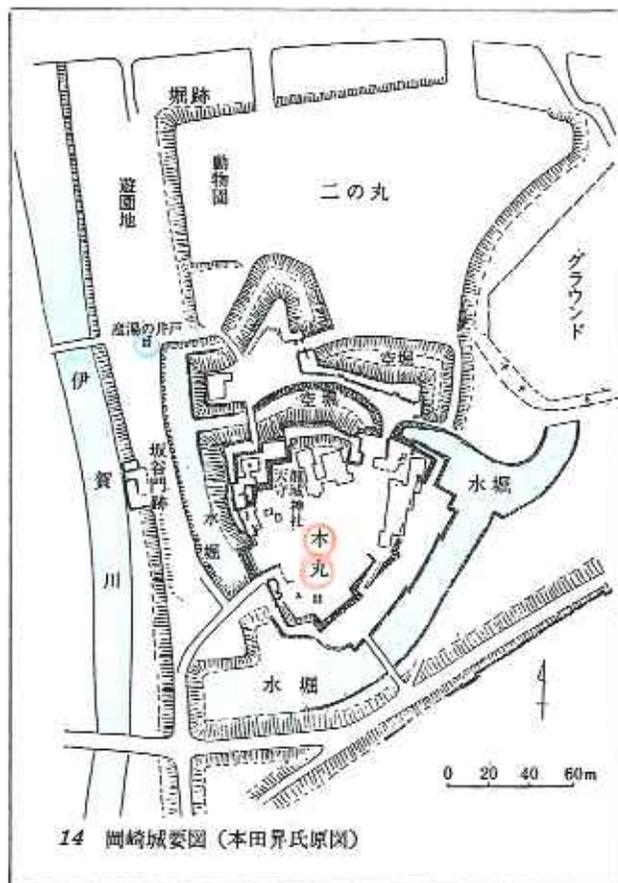
本陣の向い側にある肉の永田屋。



岡崎市の中心部



京の書店で『東海道名所図会』の岡崎宿「延寿丹」とある店。



14 岡崎城要図 (本田昇氏原図)



岡崎城の天守。岡崎公園の内にいる。



岡崎城

OKAZAKI CASTLE



城の西側。伊賀川の土手の街道。



岡崎城は、矢作川と菅生川の合流点にある。

天文11年(1542)ここで家康が生まれた。代々譜代の臣が城主となって、明治まで続いた。廃城令でこわされたが、昭和34年復元された。



古い家並みの残る板屋町。



市内最古の商業地の連尺町。



花街の風情を残している家。



材木町にある江戸時代からの店。



「唐弓弦」の古い看板がかかっている。



室町時代初期の延元2年（1337）創業の「まるや味噌」神谷製菓で造ったかりんとうを販売している。

販売者	株式会社 まるや八丁味噌2
	愛知県岡崎市八帖町字往還通52 TEL (0564)22-0222(代表)



八丁味噌の八帖町の入口。この道が東海道。



八帖町の旧道。突き当たりが矢作橋。



正保年間（1645～1648）創業のカクキュー。創業者の早川久右衛門の名をとって店の名にした。

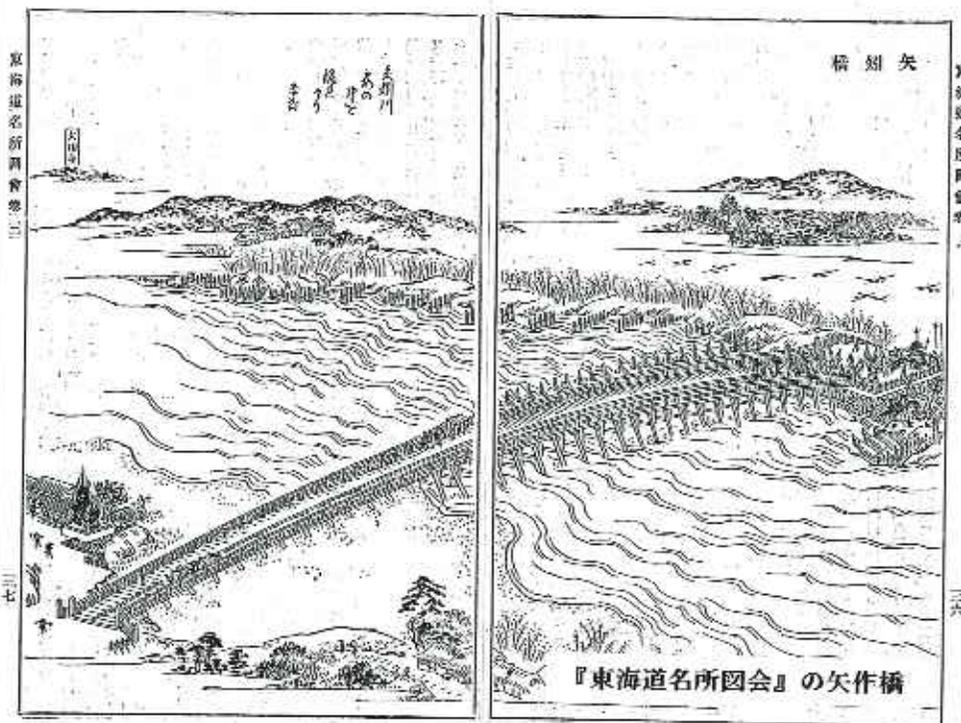


この写真の橋は昭和35年に改修された橋で1号線が走っている。昔の橋はこの下流約100mの所にあった。



大正時代の矢作橋

矢作橋は江戸時代日本で一番長い橋だった。



『東海道名所図会』の矢作橋

最初は慶長6年(1601)上橋で架けられた。長さ208間(374m)あった。

日吉丸(秀吉)と蜂須賀小六の話は作り話で、その頃はまだ橋は架かっていなかった。



安城市宇頭町は、古代東海道の宿駅のあった所で「鳥捕駅」という。

古代の東海道

古代の鳥捕駅

鎌倉時代の矢作駅

近世・現代の安城市宇頭町

この場所は同じ



矢作川を渡り矢作町に入る。



中世の東海道の宿場「矢作宿」があった所で古代の宿駅と同じ場所にあった。

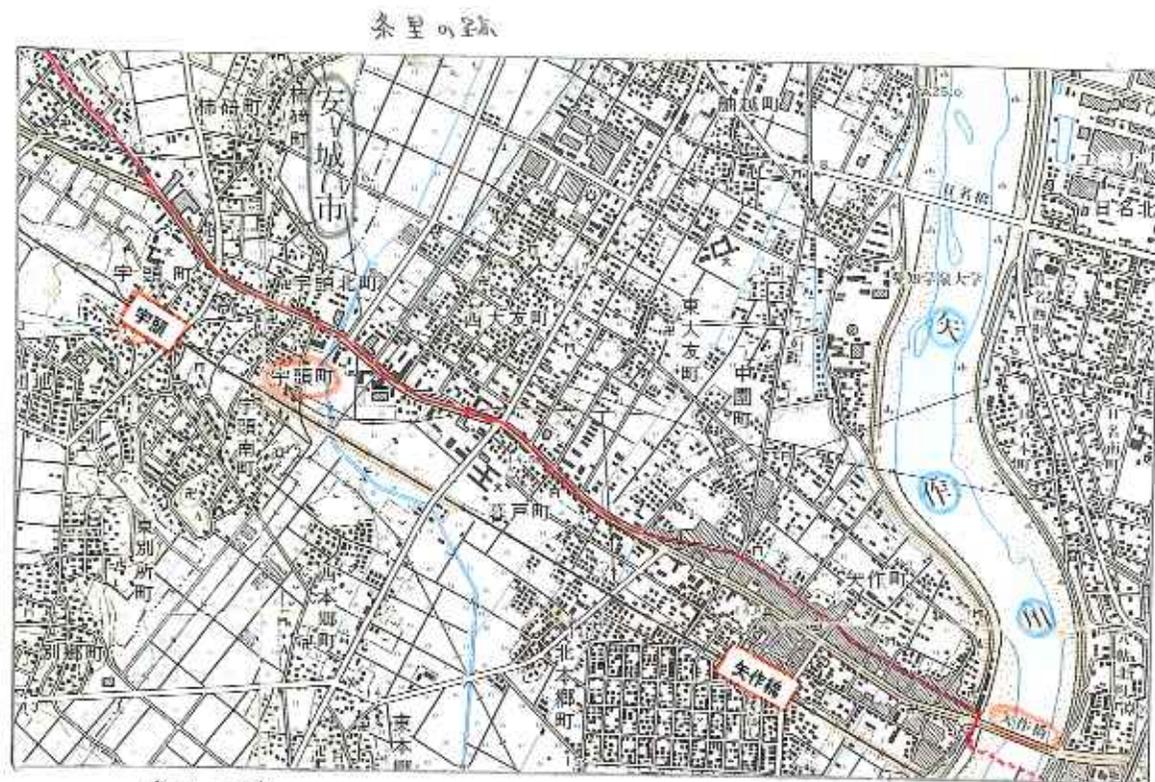
鎌倉時代の東海道



安城市宇頭茶屋町。休憩所の立場があった所。



知立の松並木。約500mの間に170本程の松が残っている。



糸屋の跡



ここから知立宿に入る。山町。



東海道も同じ今の安城市宇頭を通っている。

豊明市
ふにあ
両村馬場まで”
↑ 13.8Km
とりの鳥捕馬場 呼び名は違いますが同じ馬場。
鎌倉 矢作馬場
近世 宇頭町
↑ 16Km
岡崎市
山網馬場から

39 《知立宿》

江戸時代には「地鯉鮒」と書き、馬市で賑わった宿

宿内人口	1620人
総家数	292軒
旅籠	35軒
大	2軒
中	11軒
小	22軒



名鉄知立駅



本陣 1軒
脇本陣 1軒

左側に本陣の永田家があった。向い側の古い家は脇本陣だった家。



昔の西町の了雲寺の前を左折する。



知立城 知立神社の神主で、平安時代末期からの氷見氏の館跡。



池鯉鮒銘菓の和菓子を売る古い店。



高十三百三十石余
 冬列碧海郡
 知製鮎宿
 鳴海宿二里半指下



本町右側の「日出屋酒店」



本町の入口



宿の入口付近





古い家並みに残る旧商家。



国道1号線を左に入り有松町に入る。



台の宿だった有松村は今でも当時の道幅で、古い建物の残る「町並み保存地区」に指定されている。



名鉄有松駅。ここは名古屋市。



江戸時代からの絞り染めの商家竹田家。屋号を「笹加」という。



名産の絞り染めの商家「舁屋」

有松町の中心部



『日本往来・東海道ウォーキングマップ』 JR東海

